

## せざき防犯パトロール隊（埼玉県）

私たちは埼玉県草加市瀬崎地区の「せざき防犯パトロール隊」です。  
私が隊長の浅古と申します。  
隊員の牧羽と土田です。



### 活動地域の紹介

それでは、私たちの地域の紹介から始めたいと思います。私たちが活動する草加市のある埼玉県は、日本の首都、東京の真上にあります。私たちの草加市は埼玉県の最東南部に位置しており、住んでいる瀬崎地区は八潮市、東京都足立区に隣接したご覧のように、くじらのような形をした町です。



瀬崎地区の西側には東武スカイツリーラインが走っていて、最寄り駅は谷塚駅です。スカイツリーラインに乗れば、30分足らずで東京スカイツリーに行くことができます。瀬崎地区は約6,900世帯、人口約1万4,700人が暮らしている、谷塚駅から東に広がった住宅と工場が混在する地域です。草加市の名産である草加せんべいは全国的にも有名です。ご存じの方も多いとは思いますが、




2000年10月、スペースシャトル「ディスカバリー号」に宇宙飛行士の若田光一さんとともに、瀬崎地区内の五楽堂というお店でつくった草加せんべい「せいろ古武士」が搭乗しました。その草加せんべいが宇宙に飛び立った平成12年、瀬崎地区はまちづくりに意欲を示しました。

そして、草加市の推進するモデル地区の公募に手を挙げました。その結果、草加市から「草加市都市計画マスタープラン推進事業モデル地区」「草加市パートナーシップまちづくり事業モデル地区」の指定を受けることができました。これは地域の都市基盤整備の向上を求め、住民と行政が協働作業で行う新しいシステムのみちづくりで、誰もが住みよいまちを目指したものです。そして、平成13年7月、瀬崎コミュニティーセンターをまちづくりの拠点とし、「瀬崎まちづくり市民会議」が発足しました。

### 瀬崎まちづくり市民会議

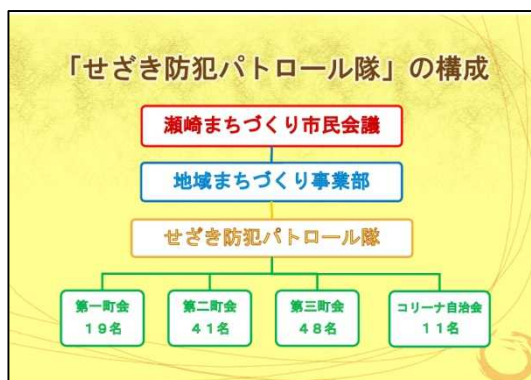
- ◎ 平成12年  
瀬崎地区が、草加市より  
「草加市都市計画マスタープラン推進事業モデル地区」  
「草加市パートナーシップまちづくり事業モデル地区」  
の指定を受ける  
⇒住民と行政の協働による「まちづくり」への取組
- ◎ 平成13年7月  
「瀬崎まちづくり市民会議」発足



瀬崎コミュニティーセンター

## 団体概要

その中で、「せざき防犯パトロール隊」は平成15年8月に結成、「瀬崎まちづくり市民会議」の「地域まちづくり事業部」に所属し、夜間は徒歩によるパトロールと、昼間は青色回転灯パトロールによる積極的なパトロール活動を実施しています。隊員数は現在、第一町会で19名、第二町会は41名、第三町会48名、コロナ自治会11名、合計119名です。



続いて、「せざき防犯パトロール隊」の結成のきっかけについてお話しします。平成15年の7月、地元にある浅間神社の例祭が行われた際、都内から遊びに来ていた女子高校生が行方不明となりました。その後、茨城県内において遺体で発見されるという事件が発生しました。この五霞町事件は報道でも大きく取り上げられました。

これが当時の新聞記事です。この事件はいまだ犯人の捕まっていない未解決事件です。これが浅間神社です。そして、この神社を基点とした祭の様様です。

### 「せざき防犯パトロール隊」発足の経緯

- ◎ 結成のきっかけとなった大きな事件  
平成15年7月  
地元神社のお祭りに来ていた女子高生が行方不明に  
⇒その後茨城県内において遺体で発見される

↓

## 五霞町事件

### 「せざき防犯パトロール隊」発足の経緯

- ◎ 五霞町事件の新聞記事



同時に、この頃、瀬崎地区内において、ひったくりが発生していました。平成 15 年のひったくりは草加市全体で年間 232 件。そのうち瀬崎地区内では 54 件。月平均にしますと、5 回に近い件数です。もちろん住民の不安が増加したことは言うまでもありません。

そこで、これでは駄目だと、警察や市と連携をもっと深めて、「自分たちの町を、自分たちの手で犯罪から守ろう」という意識のもとで、三つの町会と一つの自治会の有志が集まりまして、草加市内では初めての地域住民による自立的常設型の広域パトロール隊を立ち上げました。


「せざき防犯パトロール隊」発足の経緯

◎ 浅間神社 ◎ 例祭の状況



「せざき防犯パトロール隊」発足の経緯

同時に…瀬崎地区内でひったくりが**多発**  
 平成 15 年中  
 草加市内では 232 件の発生  
 その中でも、瀬崎では 54 件の発生

⇒ 住民の不安は増加… 

「せざき防犯パトロール隊」発足の経緯

**警察や市と連携を深め、自分たちのまちを自分たちの手で犯罪から守ろう**

3 町会 1 自治会による草加市内初の自立的常設型の広域防犯パトロール隊

**せざき防犯パトロール隊**

**活動(事業)内容・特長**

それでは、私たちの活動内容について説明いたします。まずは、夜間パトロールです。夜間パト

ひったくり防止活動

◎ 夜間パトロール



下校時の見守り活動

◎ 青色防犯パトロール

- ・ 開始年月  
平成 18 年 9 月
- ・ 活動時間  
月曜日から金曜日  
午後 3 時から午後 4 時 30 分
- ・ 4 人一組体制

  
 青色回転灯パトロールカー出発式  
 2010年7月17日 瀬崎コミュニティセンター  
 ↑日本財団から青パトの助成をうけました

ロールは、前にも述べたとおり、ひったくりの多発を受けまして、発足当時から行っています。週に4回、午後8時から午後9時まで、そろいのベスト、帽子、腕章を着用して、5、6人が一組となって、徒歩で行っています。特に自転車の無灯火を注意し、徒歩の方にも声を掛け、また、街灯切れや公園内、さらに放置自転車、あるいは駐車違反のチェックなどを行っています。現在は15班104名、平成26年は137日、のべ643人が出動しました。

次に、青色防犯パトロールです。当時、全国的に小学校への不審者侵入事件や、下校時の事件が多発したことを受けまして、平成18年9月に青色回転灯装備車によるパトロール隊を結成して、児童下校時の見守り活動を開始しました。平成22年には防犯ボランティア活動が認められ、日本財団から青パト車両の助成を受け、真新しい車両になりました。

青パトは4人体制で行っています。4人体制で行うのは、少人数で回るよりも、より多くの目と耳で、町中の情報を得ることができるためです。現在は、17班72名の隊員が活動しています。平成26年中は196日、のべ609人が出動しています。

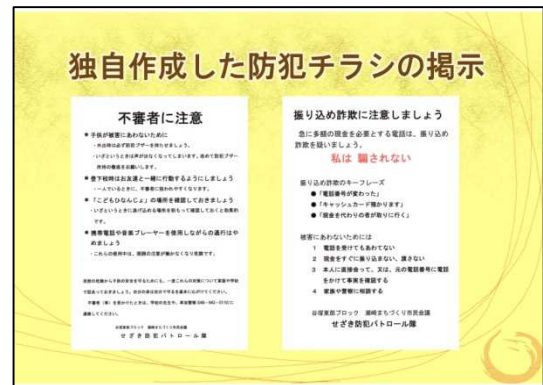
昼夜のパトロールとは別に、警察、市の情報を受けまして、行政と少しでも一体となった活動はできないか、ひいては地域の人々に犯罪状況を知ってもらいたいとの一念で次の活動を始めました。まず振り込め詐欺被害防止活動です。これは青色防犯パトロール時、特に5の付く日に郵便局、コンビニなどに立ち寄って、警察が発行したパンフレット、ちらしなどを配布し、警戒をお願いすることです。

次に地域内の掲示板の活用です。地域内には約60カ所に町の掲示板があります。草加警察、草加市から連絡を受けた情報を地域住民と共有するために、ちらしを作成して掲示しました。

その目的は町をあげて防犯に取り組む姿勢を示すことにより、犯罪を少なくしたいということです。警察、市からの情報を受けて、独自に作成し、A3に拡大、雨水防止加工をして掲示します。数カ月ごとに情報を入れ替えて、その時期に応じた内容のちらしを掲示しています。

また、青パトの拠点となっている瀬崎コミュニティーセンター内にも掲示板をつくりました。地区内の掲示板に掲示したちらしと、警察からの事件情報をもとに瀬崎地区の犯罪状況を抜粋して、独自にちらしを作成し、毎月掲示して、情報開示に努めています。

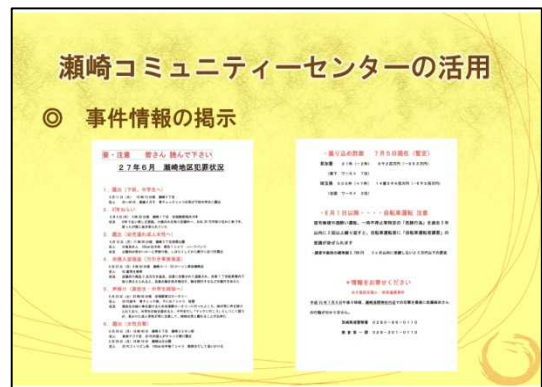
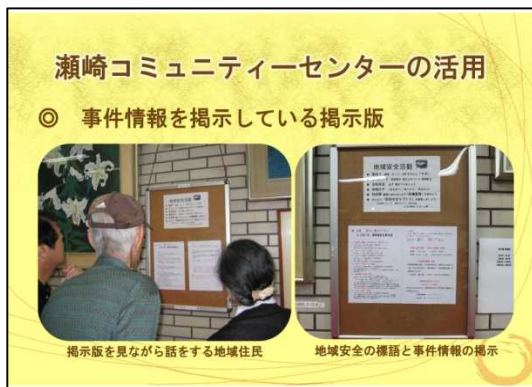




この目的はコミセン利用者や、コミセンに来た方々が瀬崎地区で起きている犯罪を知り、それを家族や仲間内に話すことで、防犯意識を広げてもらいたいということです。中でも、第二町会では、この情報を毎月、各家庭に配る回覧板に入れて、警戒を呼び掛けています。

その他、春、秋の交通安全運動にパトロール隊も参加して、交差点の見守り活動を行っています。また、写真はありませんが、浅間神社例祭時には、谷塚駅前に詰所を設置し、車両や自転車整理、パトロールを実施するほか、茨城県境警察署に協力して、五霞町事件について情報提供を道行く人に呼び掛けています。

歳末には谷塚駅構内において、キャンペーンを実施しています。これには隊員、小中学校の先生、市、警察関係者 40 人程度が参加して、ハンドマイクを使用し、ちらし、グッズなどを乗降車に手渡し、防犯を呼び掛けています。



## 活動頻度

さらに、毎月、地区隊長会議を開催し、検討事項の協議を行っています。3カ月ごとに、その活動を警察、市に報告しています。地区隊長会議の開催は平成27年10月で、結成以来131回となりました。また、毎年4月には総会を開催し、出席者は毎回平均100名を数え、平成27年4月で、開催は12回となりました。

### 地区隊長会議・総会の開催

- ◎ 月1回の地区隊長会議の開催
  - ・ 情報の共有
  - ・ 検討事項の協議

- ◎ 総会（毎年4月）  
隊員の防犯意識の醸成



## 活動効果

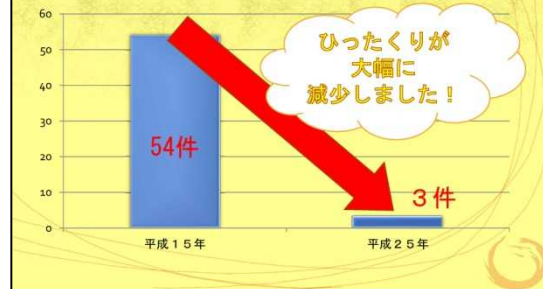
草加市の犯罪状況につきましては、一番犯罪の多かった平成13年の7,293件が、ご覧のように、平成25年には3,683件と減少しています。

瀬崎地区につきましても、ひったくり件数が平成15年には54件だったものが、平成25年には3件と大幅に減少しました。また、見守り活動をしていると、隊員にあいさつをする人も増え、地域全体の安全、安心に対する意識の高まりを感じます。

### 草加市の犯罪発生状況



### 瀬崎発生のひったくり件数



## 今後の課題

今後の取り組みにつきましては、なんといっても、隊員の高齢化が進んでいることが課題です。平均年齢は76歳程度だと思われませんが、若い人の勧誘を積極的に行い、活動に参加してもらうことが喫緊の課題と言えます。

先月のことですが、一人の若い女性がわれわれの地区隊長会議に参加されました。いままでで初めてですが、この方は今、働いていて、仏教大学

### 今後の取組について

- ◎ 課題
  - ・ 若手の参加促進による活動の活性化
  - ・ 行政とパトロール隊、住民との一体となった活動
  - ・ 緊張感の持続によるマンネリ化の防止

の通信教育を受けているそうです。若い頃から非常に防犯パトロール活動に興味を持って、1回、現場でやってみたいという思いが募って、草加警察のほうにお願いしたそうです。そして警察のほうから、私たちのボランティア活動を紹介されて、ぜひ、参加してみたいという思いで来ていただいた。われわれはびっくりしたのですが、今日の発表を見ていると、若い人が防犯活動をやっておられるので、全然、不思議ではないのですね。彼女に対しては、私たちもぜひ、お願いしたいということで、むしろ、お知恵を貸していただけませんかと申し上げました。とりあえず、昼間は働いていますから、夜の活動のほうに参加していただきました。地区隊長会議も夜ですから、その会議にも参加していただければ一番良いということで、先月からお願いし、今月も出ていただけることになっています。

二つ目です。ひたたくりは減少しましたが、ひたたくり以外の犯罪の減少を目指して、行政とパトロール隊、住民が一体となった活動が必要だと考えています。

そして三つ目です。「せざき防犯パトロール隊」は発足して12年が過ぎました。写真は10周年祝賀会の際の様子です。青色回転灯パトロール車による活動も、来年は10周年を迎えます。「継続は力なり」。パトロール活動に終わりはありません。マンネリ化しないように緊張感を持って活動できる対策を検討していきたいと思っています。以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 質疑応答

●質問 夜間パトロールが週4日と、1週間のうちの半分以上の日をちをかけて行っていますが、発足当時から週4日やろうと決めて、いまなお続いているのか、それとも、活動を続けているうちに変化していったのでしょうか。

○回答 これは最初からです。先ほど、申しあげましたように、瀬崎町では第一町会、第二町会、第三町会の三つの町会があり、それに一つの自治会、これはマンションですが、そこが加入して、当初からこの4グループがこのようにやっています。最初は夜間パトロールと、今はやっていないですが、年に数回昼間の街頭パトロールもやっていました。

それから、どうしてもこれだけの人が動くと、費用がかかります。資金については、草加市から年間30万円いただいています。それと各町会、自治会から一世帯100円で40万、ですから年間70

万円で運営できています。これは最初から、資金面はすごく豊かで、皆さん、やりがいがあります。